
○議長（斉藤 重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1 時 0 0 分）

◇ 佐 藤 作 行 君

○議長（斉藤 重君） 一般質問を続けます。

通告順位 3 番、佐藤作行君。

（3 番 佐藤作行君 登壇）

○3 番（佐藤作行君） 通告に従いまして、質問を数点と要望になると思いますが、いくつか要望をしたいと思います。

1 点目ですが、平成 25 年度予算の当町の編成方針についてお伺いします。

①松崎町の重点施策は何か。②その優先順位をお願いしたいと思います。

2 番で、歳出見直しについて。

①毎年見直していると思うが、来年度についても行うのか。

②23 年度の実績数で随意契約が多い理由。また、今後の対策についてお願いします。

③自治消防団のポンプ購入について地元負担金（寄附金）を受けているのか、現状と、今後と同様にしていくのか、あるいは公費負担とする考えはあるのか。

3 番として、身障者の法定雇用についてです。

①松崎町の雇用現状について。②25 年 4 月より雇用率引き上げとなるが、対策は講じているか。

以上でございます。よろしくお願いします。

○町長（齋藤文彦君） 佐藤作行議員の一般質問にお答えします。

1. 平成 25 年度予算の当町の編成方針について。①「松崎町の重点施策は」②「その優先順位は」についてであります。

平成 25 年度予算編成に向けましては、毎年 10 月 9 日付で各課にその編成方針を示したところで、現在その方針に基づいた予算要求がされております。来年度の予算編成の基本はこれまで以上の行財政運営の合理化に努め、安全・安心なまちづくりを最優先課題とするとともに、平成の花とロマンのふる里づくりの具現化への一層の取り組みを重点としております。その中で、津波避難タワー等の地震津波対策、「日本で最も美しい村」連合への加盟に向けた取り組みによる平成の花とロマンのふる里づくりへの積極的な施策、さらに、策定中の第 5 次総合計画は可

能な限り予算へ反映させることとしております。

歳出見直しについて。①「毎年見直していると思うが、来年度についても行うのか」についてであります。

歳出につきましては、ご承知のとおり自主財源の少ない当町においては効率的な予算運用が求められ、少ない経費で大きな効果が生み出せるよう、事業の選択に際しては慎重に対応してまいりました。この傾向は今後も変わることはないと思われまます。

従いまして、事業のスクラップアンドビルドを常に念頭に置いて予算の編成に努めているところであります。

②「23 年度の実績数で随意契約が多い理由は。今後の対策は」についてであります。

随意契約につきましては、地方自治法施行令第 167 条の 2 で契約ができる場合を定めており、この規定に沿って随意契約は行われます。

随意契約の状況を確認しますと、工事発注に比べて委託業務が圧倒的に多くなっております。委託総額 5 億 600 万円の内、単独随意契約は 4 億 3600 万円で 86.2 パーセントを占めております。この内、保育所委託、老人ホーム入所措置委託、健康診断、予防関係で 7900 万円、公社施設管理委託 1 億 2900 万円、道路等応急復旧委託に 1300 万円と必然的に契約先が決まっているもの、緊急的なもので約 2 億 2000 万円となっております。これまでも随意契約の方法についてはご意見を頂戴しているところであり、今回の予算編成にも改めて単独随意契約については、内容等を充分精査し、入札、見積合せが可能なものは改めるよう指示をしているところでございます。

③「自主消防団のポンプ購入について地元負担金（寄附金）を受けているのか、現状と今後とも同様にしていくのか、公費負担とする考えは」についてであります。

消防団のポンプ購入に際しては、現在 2 パーセントの地元負担をお願いしております。その他の消防施設整備におきましても、ポンプ車、ポンプ付き積載車は 2 パーセント、消防ポンプ庫、消火栓の新設では 3 パーセントを地元負担としてお願いしておりますので、引き続きお願いをしてまいりたいと思います。

障害者の法定雇用について。①「松崎町の現状について」②25 年 4 月より雇用率が引き上げとなるが、対応策は講じているのか」についてであります。

ご承知のとおり、障害者の雇用促進等に関する法律では一定規模以上の事業主は法定雇用率を上回る障害者雇用が義務付けされています。現状では、一般事業主は 56 人以上雇用している場合に 1.8 パーセント、地方公共団体では 48 人以上で 2.1 パーセント以上の雇用率が求められ

ています。

当町では、本年 6 月 1 日付の障害者任命状況通報書によりますと、実雇用率 4.05 パーセントで 2.1 パーセントをクリアしております。

平成 25 年 4 月 1 日からは雇用率が 2.3 パーセントとなりますが、先の 4.05 パーセントの雇用率ですので、問題はありませんが、分母、分子ともに小さな数値なので、1 人でも減少すると厳しいことから、将来を見据えた対応を検討していく必要を感じております。

以上でございます。

○3 番（佐藤作行君） これより一問一答にてお願いしたいと思います。

○議長（斉藤 重君） 許可します。

○3 番（佐藤作行君） はじめに、「松崎町の重点施策は」ということで、あれしましたけれども、先ほど高柳議員からも第 5 次総合計画のお話がありましたけれども、これに関連してちょっとお聞きしたいんですが、人口を減少させない、7000 人を目標とするということになりますと、子育て支援とか、出生率の向上とか、こういうことがどうしても必要になると思うわけですが、安心して産める環境あるいは安心して育てられる環境というようなものに対しての予算付けは考えているのかどうか、町長にお伺いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） まだ町長査定等はしていませんので、どういうのが出てくるのか、わかりませんが、そのようなことを考えてやっていきたいと思っています。

○3 番（佐藤作行君） 先日河津の町長の相馬さんとちょっとお話をする機会がありまして、河津町は昨年度県下で年間出生率が 2 番になったということで大変喜んでいたわけですが、やっぱり不妊治療ですね、それから、子育て支援、そういうものをきめ細かくやっているような話でした。ぜひそこらも参考にして、当町もぜひ年間 40 人の子どもを、生まれる子どもを 50 人、60 人と拡大していくというような施策を来年の予算に織り込んでいただきたいと思います。そこらはどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 相馬町長ともそういうことについていろいろ話し合っていますので、そのようなことをできる限りやっていきたいと思っています。

○3 番（佐藤作行君） やっていくということで、大変ありがたいことだと思っています。

それから、先ほど質問しました重点施策のうち、優先順位等はいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） やっぱり安心・安全なまちづくりということで、津波避難タワーとか、地震対策等を積極的にやっていきたいなと思っています。

それに加えて、「日本で最も美しい村」連合への加盟に向けた取り組みを通して、自分が言っ

ている平成の花とロマンのふる里づくりの一定の成果を目指していきたいと、それに第5次総合計画は可能な限り踏まえた施策を推進して、この3本柱で重点政策をやっていききたいと思います。

○3番（佐藤作行君） それでは、次に移りたいと思います。ほかの市町村なんかでも歳出の見直しについては、いろいろ行っているようですが、国あるいは県なんかで事業仕分け等も行っているわけですが、松崎町においての事業仕分け的なものは行っているのかどうか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 予算査定の中、また総合計画のローリングの中でやっていると思います。また、10人の皆さんが厳しい目を光らせていますので、事業仕分けの・・・、10人の目を気にしながらやっているようなところでございます。

○3番（佐藤作行君） 次に、2番へ移りたいと思います。

23年度の実績数で随意契約が多いということは指摘したわけですが、これについても一般競争入札に移行するような考えは・・・、できるものからということになると思いますが、考えはあるのかどうか、お伺いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 意識的に随意契約をやっているのではなくて、自治法に則ってやっているわけですがけれども、皆さん方からそういう随意契約うんぬんの話が出てきますので、先ほど答弁したように入札、見積合せが可能なものは改めるように指示して、なるべく公明正大にやっていきたいなと思っています。

○3番（佐藤作行君） わかりました。それはそれくらいにして、3番目に自治消防団のポンプ購入についての負担金あるいは・・・。

○議長（斉藤 重君） 佐藤君、もう少し大きい声で元気よくやってください。

○3番（佐藤作行君） 消火栓が3パーセントという話ですが、ほかの市町の議員なんかに聞きますと、松崎町はまだそんな負担をさせているのかという驚きの声を結構聞くわけですが、それについて町長はどんなふうに思われますか。

○町長（齋藤文彦君） わが町は、わが町で行くしかないと思っています。地元の方がポンプ車、積載車が2パーセント、消防ポンプ庫、消火栓の新設が3パーセントを地元の人に出してもらっているわけですがけれども、やっぱり地元の人が「これだけお金を出しているんだ、もうちょっと大切にしよう」というような考え方が消防団にあると聞いていますので、松崎町はこれを堅持していきたいなと思っています。

○3番（佐藤作行君） 負担したから大事にするとか、負担しないから大事にしないとかという

次元の問題ではなくて、これは、例えば2パーセントのものを1パーセントにするとか、3パーセントのものを2パーセントにするとか、そんな考えというのはありますか。

○町長（齋藤文彦君） 今のところはそういうことは考えておりませんが、そのような意見が強くなってきたらそのようなことを考えると思いますけれども、今のところは考えていません。

○3番（佐藤作行君） 先日やっぱり下田の先輩の議員に聞いたところ、もう下田じゃあ遠い昔にゼロにしたと、そういうような話を伺っているわけですよ。県下どこに聞きましてもほとんどもう地元負担金というのはポンプ積載車についてはないというような現状がもうほとんどで、ぜひここらは考慮していただきたいと思いますが、来年が無理だったら長期的な視野にたって、来年度は1パーセント分を減らそうとか、あるいは再来年度はゼロにしようとか、長期的な視野にたって住民の負担を減らすような方向というのは考えられないかどうか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） いろいろなそういう方向性はあると思いますけれども、松崎町は今のままでいきたいなと思っていますけれども、佐藤議員がこういうことを言っていますので、いろいろ内部の方で調整してみたいと思いますけれども、今のところはこのままでいきたいということです。

○3番（佐藤作行君） じゃあ前向きに検討するような考え方でよろしいですか。

じゃあ、次にお伺いしたいと思います。3番目に障害者の法定雇用についてでございます。これはどこの市町村でも結構気にかけていて、法律では正社員でなくてもパートでもよろしいというような形になっておりますが、当町の場合は、該当する方というのは正規職員なのか、パートなのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○総務課長（金刺英夫君） 当町の場合では、正規の職員が1名、臨時が1名ということで2名でございます。この内の1人がポイント2といいたいでしょうか、2倍にカウントされる級の方でございます。

○3番（佐藤作行君） はい、ありがとうございます。法律的には問題ないということでございます。

それで、やっぱりこういう身障者雇用とか、あるいは老人、あるいはシルバー、そういう立場の弱い者の雇用についてはやっぱり町自体が積極的に取り組んでいただきたいと思うわけですが、そこらのこれからの姿勢はどんなものか、ちょっとお聞かせください。

○町長（齋藤文彦君） 佐藤議員に「将来を見据えた対応を検討していく必要を感じております」

と答えたわけですが、来年度の職員採用の時に障害者の人を募集したい。やってみたい
なと思っています。

○総務課長（金刺英夫君） ただいまの町長の発言の中でございますけれども、障害者の枠で試験採用というふうな形でございますので、そのところは単純に採用ということではなくて、試験があるという前提でございますので、ご理解いただきたいと思います。

○3番（佐藤作行君） だいぶ時間を余したようでございますが、大方の質問、聞きたいことは質問いたしましたので、ここらで終わらせていただきたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（斉藤 重君） 以上で、佐藤作行君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後 1時20分）
